

## トラック輸送情報（平成27年11月分）

平成28年2月4日  
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室  
担当：廣中、桑原 内線28723  
直通：03-5253-8346  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

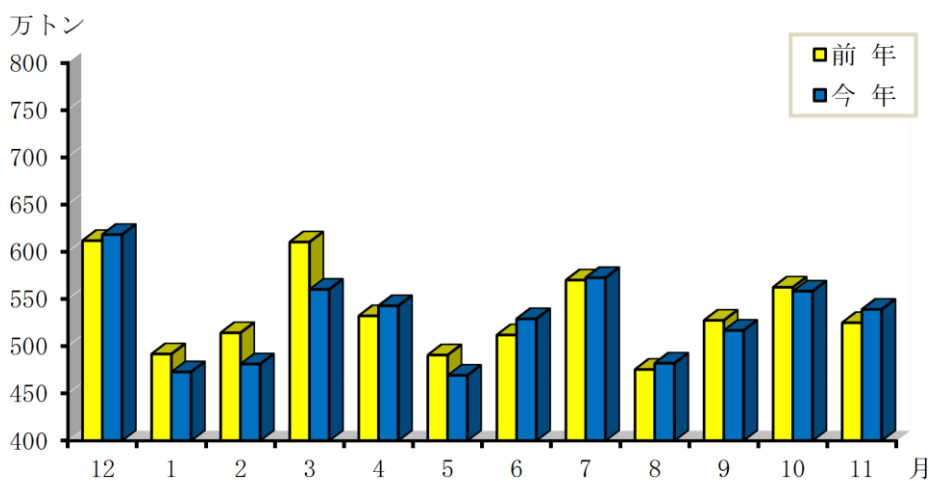
#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,389,483トンで、前月と比べ総輸送量が約193千トン減少したため、前月比96.5%（季節調整済み99.3%）となり、前年同月との比較では、約141千トン増加したため、前年同月比102.7%の実績であった。

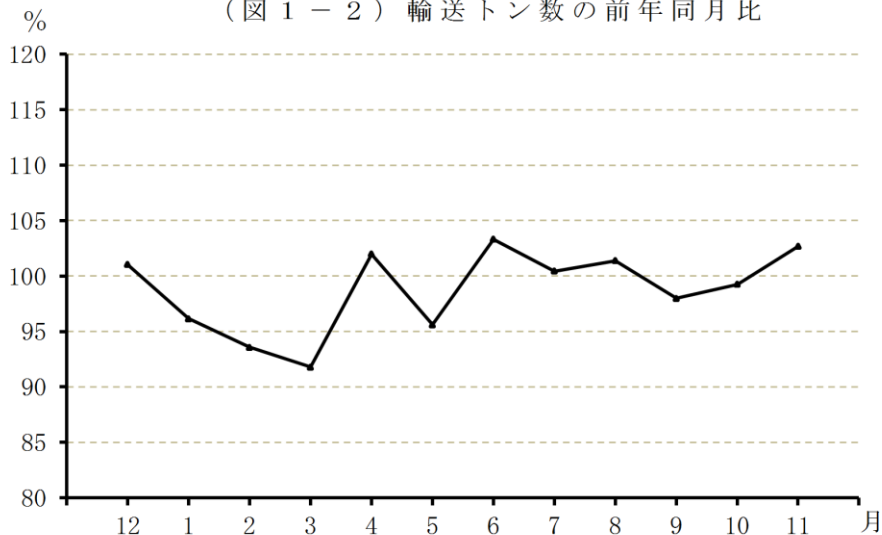
なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ2.2日減少し、前年同月との比較では、0.1日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、239,533トンで、前月と比べ約14千トン増加したため、前月比106.0%となり、前年同月との比較では、約5千トン増加したため、前年同月比102.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

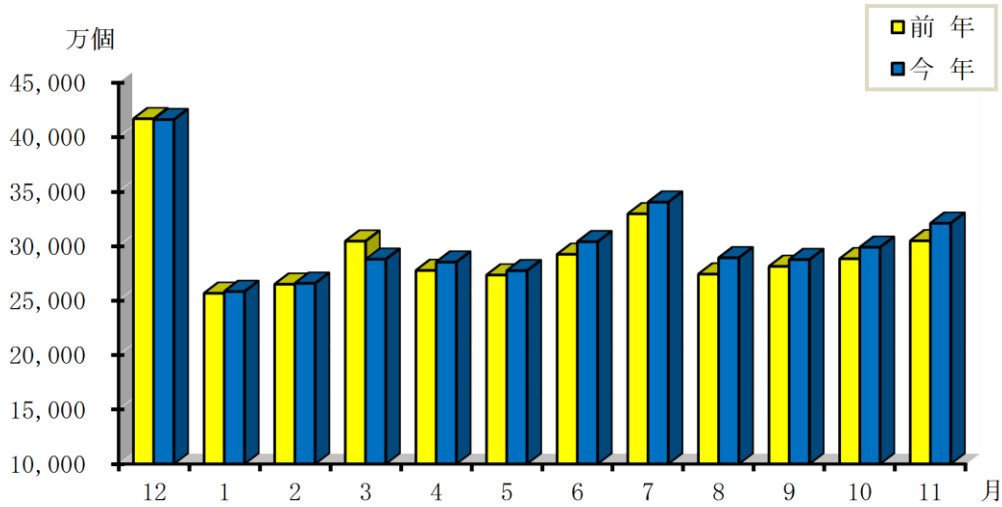


(2) 宅配便の概況

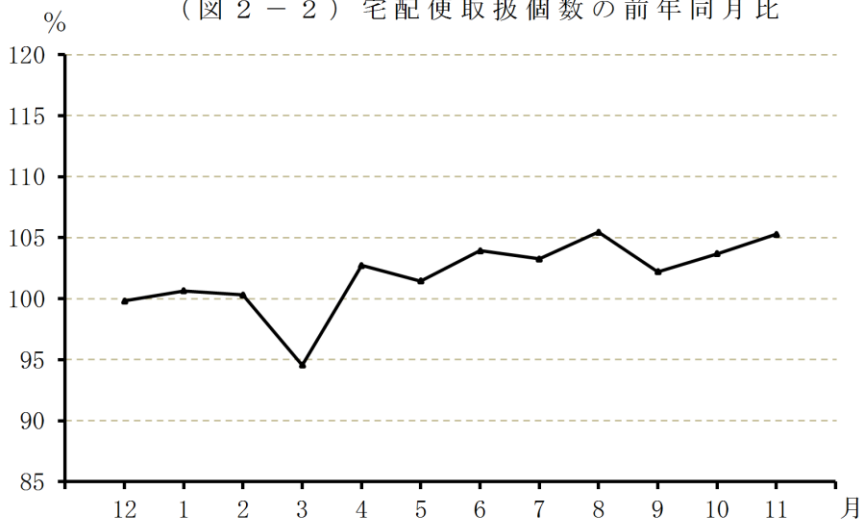
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 320,873 千個で、前月と比べ 約 21,957 千個増加したため、前月比 107.3% (季節調整済み 99.7%) となり、前年同月との比較では、約 16,099 千個増加したため、前年同月比 105.3%の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、「その他」を除いた全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その減少要因としては、工場・生産地からの貨物減であった。また、倉庫から出る貨物減が「化学工業品」で、季節的需要減が「日用品」で見られた。主な減少地域は、関東地方から中国の範囲であった。

前年同月と比べると、「農水産品」、「機械」で輸送量が著しく増加したと回答する事業者があった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品		2 11	3 2			
	金属製品		1 14	6			4
	機 械		3 13	4			
	化学工業品		2 12	8		神奈川、関東、大阪、兵庫	4, 7
	繊維工業品		1 14	7		関東地方、愛知、近畿地方、中国	4
	食料工業品		2 13	5			
	日 用 品		1 13	7			8
	そ の 他	1	3 12	5			
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2	1 12	3			4
	金属製品		1 16	4			
	機 械	2	2 13	3			4
	化学工業品		3 13	6			
	繊維工業品		2 16	4			
	食料工業品		3 16	1			
	日 用 品		2 17	3			
	そ の 他		4 12	5	その他(百貨店配送品)		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都府県を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 812 社/調査対象事業者数 1,007 社)の輸送量は、前月比 95.9%、前年同月比 98.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	98.2 %	97.3 %	98.2 %	95.5 %	88.9 %	103.4 %	101.4 %	97.1 %	104.1 %	97.6 %	102.4 %	
前 月 比	95.9 %	96.0 %	94.2 %	98.0 %	91.5 %	96.7 %	95.5 %	94.7 %	100.5 %	96.9 %	100.3 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 96.0%、対前年同月比 97.3%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」、「その他の石油製品」が、工場・生産地からの貨物増により「その他の石油製品」が、また、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「水産品」が、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物減により「穀物」が、また、「木材」、「石炭」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 94.2%、対前年同月比 98.2%であった。品目別では、季節的需要増により「揮発油」が、工場・生産地からの貨物増により「その他の製造工業品」が、また、「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、倉庫への入出庫減により「穀物」が、工場・生産地からの貨物減により「野菜・果物」、「食料工業品」が、また、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 98.0%、対前年同月比 95.5%であった。品目別では、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 91.5%、対前年同月比 88.9%であった。品目別では、「機械」、「セメント」、「その他の窯業品」及び「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「穀物」が、また、「鉄鋼」、「金属製品」及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 96.7%、対前年同月比 103.4%であった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 95.5%、対前年同月比 101.4%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「機械」が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 94.7%、対前年同月比 97.1%であった。品目別では、「機械」、「その他の石油製品」及び「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 100.5%、対前年同月比 104.1%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増により「穀物」、「工業用非金属鉱物」、「機械」及び「紙・パルプ」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 96.9%、対前年同月比 97.6%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により「穀物」が、天候の影響により「野菜・果物」が、また、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「水産品」が、また「畜産品」、「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「セメント」、「その他の製造工業品」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 100.3%、対前年同月比 102.4%であった。品目別では、「金属製品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
1. 穀物	増	1	1		1			1	3	3	1	11
	減	3	4		3			1		1		12
2. 野菜・果物	増	4	3				1	1	10	8		27
	減	5	5					1	1	4		16
3. その他の農産品	増	3									1	4
	減	1						1				2
4. 畜産品	増											
	減		1							2		3
5. 水産品	増		1						1	1		3
	減	3	2							3		8
6. 木材	増				1			1	1			3
	減	4	1		1			2	1	1	2	12
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増		1									1
	減	2										2
9. 金属鉱物	増											
	減		1									1
10. 砂利・砂・石材	増	2	1					1	2			6
	減	14	2			1		3		3		23
11. 工業用非金属鉱物	増		1						2	1		4
	減	1	1									2
12. 鉄鋼	増		3						2	1	1	7
	減				3				2	2		7
13. 非鉄金属	増				1		1					2
	減											
14. 金属製品	増				1	1		1	1		2	6
	減		1	1	3					5		10
15. 機械	増	2		1	3	1	1	4	5	5	1	23
	減		2			1	2	2		1		8
16. セメント	増	1	1		2			2	1	1		8
	減	4	1				1	2		5		13
17. その他の窯業品	増	2	1		2				1	1		7
	減					1						1

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増	1	3		1				1			6
	減		1		1			1		1		4
19.その他の石油製品	増	5			1			2		1		9
	減	3			1				1			5
20.コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減											
21.化 学 薬 品	増								2			2
	減								1			1
22.化 学 肥 料	増	1	1		1				1			4
	減		1							1		2
23.その他の化学工業品	増							2		1		3
	減	1					1	3				5
24.紙 ・ パ ル プ	増	1	2					1	3	2	1	10
	減		1		1		1	1	1	3	1	9
25.織 維 工 業 品	増		1									1
	減							1	1			2
26.食 料 工 業 品	増		2		1		2	2	2	4		13
	減	1	5	2	3		1		2	4	1	19
27.日 用 品	増				1	1	2	1			2	7
	減	1	1		1		1	2		1		7
28.その他の製造工業品	増		3		2			1		1		7
	減	1	1			1			2	3		8
29.金 属 く ず	増		1	1						1	1	4
	減									1		1
30.その他のくずもの	増											
	減				1							1
31.動植物性飼・肥料	増		1						1			2
	減		2						1	6		9
32.廃 棄 物	増		1						1			2
	減	1	2			1					1	5
33.輸 送 用 容 器	増											
	減				1				1			2
34.取 り 合 せ 品	増			1					1	1		3
	減										1	1
35.そ の 他	増		2	1	5		2	3	2	1	1	17
	減	2	1		1		6	8	1	4	1	24